

# 令和元年度 事業報告

公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

## <概況>

本協会は 1980 年 7 月 26 日に創立され、昨年 39 周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と長年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、平成 26 年 3 月 20 日、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、平成 26 年 4 月 1 日に移行・設立した。

事業運営面では、公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、北関東、東海、近畿、中国の主要 6 地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、未来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

中でも、事業推進の原動力となる「全国代表者会議」は、本部と 6 地区の代表者によって具体的事項を協議・決定し、その内容が東・西の「全国指導者会議」に報告され、地区の運営に活かされている。

東・西の「主査研修」「主査候補研修」で育成された若手リーダーを中心に積極的な普及活動が展開され、新しい地域の開拓も着実に進んでいる。また、これらと併せて、組織の再編成や新しい地域の開拓、研修・学習体制の見直し、地区事務局体制の強化などを実施すべく積極的に推進してきた。

今年、創立 40 周年を迎えるにあたり、平成 28 年に「全国 50 スクール体制」実現を目標として掲げ、また併せて 40 周年を記念する事業として、①記念大会の開催（2020 年 11 月 23 日、於東京国際フォーラム）、②スコーレ会館の整備、③40 周年記念誌の発行、を実行、開催すべく検討を行ってきた。

しかし、令和 2 年 2 月以降、国内において新型コロナウイルスの感染が広がりを見せる中、政府による小中高校の臨時休校要請などを受けて、早朝研修をはじめとした全国各地の活動は休止を余儀なくされた。

## <事業活動>

### I. 家庭教育の振興

- (1) 各地の教育委員会や幼稚園、小学校 PTA 等から講演会の講師の要請を受け、11 回派遣し、延べ 692 人が受講した。
- (2) 各地の教育委員会より 159 回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象に「家

庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「子育てセミナー」ではアットホームな雰囲気、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。

これらの講座開催は1,085回に及び、延べ17,611人が受講した。

- (3) 協会認定の57人のカウンセラーによるカウンセリングは、各地区で定期的に行われ、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っている。
- (4) 成人男性対象の組織『スコアレ・マスターズ』は、坐禅・ボイストレーニングを主体とする「地区学習会」を全国各地で開催しているが、中でもボイストレーニングのレベルアップを目指している。
- (5) 熟年女性対象の組織『スコアレ・グレイセス』は、「グレイセス講座」や「生き活きトレーニング」を各地区で開催して好評を得ると共に、指導者の養成を図っている。

## II. 研修の実施

- (1) 「早朝研修」は全国47か所の会場で毎朝開催し、延べ192,706人が出席した。
- (2) 初級・中級・上級者向けのボイストレーニングが各地区で活発に行われ、延べ9,121人が受講した。同トレーニング修了者が受講する「ことだまコース」は、朗読法や話し方を向上させ、指導者養成の研修として定着している。
- (3) お母さんがゲーム感覚で子供と共感体験できる「ふれあいトレーニング」をはじめ、寝たきりや転倒防止を図る「生き活きトレーニング」を開催し、合わせて、指導者を養成している。
- (4) 「家庭教育講座」の講師として、今年新たに4名が「本部講師」の検定に合格し、現在31人の講師が全国の家庭教育講座を担当している。
- (5) トレーナー審査会が開催され、「心身開発トレーナー」2級に1人、3級に1人、5級に7人が、「生き活きトレーナー」に6人が合格した。また、「ふれあいトレーナー」「生き活きトレーナー」と合わせて、全国で163人が各地区で活躍している。
- (6) 「リーダー研修」「実践者研修」「コメンテーター研修」等に、合わせて3,331人が受講した。
- (7) 実践者研修では新たに「北部実践者研修」を年3回開催して、宮城・栃木・茨城・群馬県から延べ100人が受講し、若手リーダーの育成を図った。
- (8) 会員向けの『自己発見の旅』学習は55人が受講し、延べ2,597人となった。

## III. 研究プロジェクトの実施

- (1) 『子育て応援キット』から学び始めて、『スタート』学習、『ステップ・UP』学習、さらには『自己発見の旅』学習を受講して、レベルアップを図る学習プログラムのシステム化に取り組み、全国展開が平成27年4月からスタートしている。

『スタート』学習では、若いお母さんが学習しやすいように改訂した教材を平成28年

9月から使用して、好評を博している。また、リーダー向けに「参考メッセージ集」を発行して、活用されている。

- (2) 一部賛助会員からの要請により、社員教育の一環として講師・トレーナーを派遣し、ボイストレーニング・ふれあいトレーニングなどを中心に12回実施し、延べ103人が受講して好評を得た。

#### IV. ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

- (1) ベルマーク収集活動は、今年度の集票点数は335,220点であった。創立以来のベルマーク収集の全国累計は2,300万点を超えている。
- (2) 第41回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」に、全国49か所で759人（子供283人）が街頭に立って市民に募金を呼びかけ、1,675,183円を日本ユニセフ協会に収めた。
- (3) 使用済み切手は、日本キリスト教海外医療協力会に寄贈し、海外の医療・社会衛生分野への支援を行うほか、社会福祉法人「聖明園」にも送られている。
- (4) 未使用はがきの収集枚数は、4,452枚となり、学校法人「アジア学院」への援助などに活用されている。
- (5) 日本学術会議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、第34回記念大会で2人が研究成果を発表した。また同学会が認定する「家庭教育師」に新たに9人が認定され、現在18名が認定者となっている。

#### V. 普及事業

- (1) 月刊『すこ〜れ』（通巻470号）は、生涯学習誌として、内外の好評を得ている。
- (2) 普及用の季刊冊子「スコレフレンズ」を平成30年7月発刊した。一般向け広報誌として、講座案内用のチラシとセットで配布するためのツールとして活用されている。
- (3) 協会公式ホームページは随時データを更新して、魅力的な最新情報を提供している。特に、各地の家庭教育講座の開催情報にアクセスが集中している。入力データを基に講座のチラシが作成できる「スターター・キット」が、広く活用されている。  
さらに、会員専用ページに、各地区の活動情報を発信する「コミュニティ広場」のコーナーを開設して、閲覧回数が増えている。
- (4) 相模原市の地元紙「相模経済新聞」に、子育て中の父親向け企画として「おとうさん、出番ですよ！」を毎月、連載した。
- (5) 女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」（5巻）は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。
- (6) 「ボランティア通信」（通巻50号）を年2回12,000部発行し、全国の収集ボランティア協力者に広く読まれている。

<会員動向>

会員等区分の名称	平成 31 年 3 月 31 日	令和 2 年 3 月 31 日	前年比
一般会員	19,891 人	19,313 人	97%
特別会員	7,886 人	8,060 人	102%
合計	<b>27,777 人</b>	<b>27,373 人</b>	<b>99%</b>
賛助会員	9 社	7 社	78%

以 上